

vol. 34 熊本地域リハビリテーション広域支援センターNEWS

— 目次 —

- 1 ご挨拶
- 2 東京 2020 パラリンピック競技大会帯同報告
陸上競技日本選手団トレーナーとして
- 4 民生委員・児童委員さんへ
ZOOM を活用した研修会を開催
- 5 口唇口蓋裂家族教室
編集後記

発行日：2021 年 10 月

発行元：熊本地域リハビリテーション広域支援センター熊本機能病院

お問い合わせ：熊本機能病院内

〒860-8518 熊本市北区山室 6 丁目 8-1

TEL：096-341-0511 FAX：096-341-0512 Email：kc-chiikireha@juryo.or.jp

担当：東利雄（理学療法課 課長補佐）

～ご挨拶～

皆様、こんにちは。令和 3 年度から当センター長を拝命しました、渡邊進(わたなべすすむ)です。前任の三宮克彦と同様、地域の皆様の健康生活の維持・延伸に努めてまいります。どうかよろしくお願ひいたします。

地域リハビリテーション(リハ)とは、「障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う。」と定義されています。

これを実現するために、熊本県から県内 17 か所に指定された地域リハ広域支援センターは、市町村や介護サービス事業所等に対する相談業務、研修会の開催、技術的支援や介護予防活動、災害時の避難所支援等を行っております。最近では地域の高齢化に伴い創設された、地域密着リハセンターにもご協力いただき、より地域に密着した具体的な活動もできるようになってまいりました。コロナ禍であっても知恵を絞り、介護予防活動の継続努力を頂いているところです。

少子高齢化と言われる人口動態は、今後も続く見通しであり、地域リハを通して地域包括ケアシステムをそれぞれの地域の実情に合わせてどのように組み立てていくのか、大変重要な過渡期となっているように思えます。また、一方では、持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)でも取り上げられる「包摂性」という課題は、高齢者だけでなく、幼少年期、青壮年期、中高年期の多くの方々も含む地域リハの課題と考えております。

当センターが担当する熊本市北区において、地域住民の皆様と共に考え取り組んで参る所存です。これまでも増して、ご指導ご鞭撻のほど賜りますようお願い申し上げます。

2021 年 10 月 7 日

熊本機能病院センター長 渡邊進

東京 2020 パラリンピック競技大会帯同報告 ～陸上競技日本選手団トレーナーとして～

新型コロナウイルス感染が世界中に広まり、1年延期され開催となりました“東京 2020 パラリンピック競技大会”に陸上競技日本選手団トレーナーとして令和3年8月25日～9月6日の間、帯同する機会を頂きましたので報告致します。

パラリンピック会場のある東京、千葉、埼玉の3都県で新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令中であること等を踏まえ、8月16日に全ての競技で無観客とすることが決定されました。1988年に中国で開催された北京パラリンピック大会にも同様に帯同した経験がありますが、感染対策により雰囲気も大きく違った大会でした。

感染拡大防止対策としてバブル方式がとられ、大会期間中拠点となった選手村入村2週間前からアプリを活用した体調チェック、72時間前には新型コロナ検査を受け、入場口では手指消毒・検温、入村後も毎日検体を提出しなければいけないといった徹底した感染対策が行われました。また、選手村の宿泊棟内やダイニングを含めショップや競技場など、あらゆる場所で手指消毒が行えるよう、またボランティアによる監視も徹底されていました。



《選手村の全景 : <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00110/00147/>より引用》

競技場面は、TV 等で見られた方も多いためと思いますので、大会期間中、生活の場となった選手村の様子を写真で紹介します。



① 宿泊棟



② メインダイニング



③ カジュアルダイニング
(日本食を提供)



④ トランスポートモール
(競技会場の昇降場)

今回のパラリンピックは、オリンピックに続き新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中での開催となりましたが、162 の国や地域選手団及び難民選手団約 4400 人が参加し過去 2 番目に多い参加状況でした。この大会は最高峰の国際大会で、22 競技 539 種目が行われました。

陸上競技が行われたオリンピックスタジアム（新国立競技場）の収容人数は 68,000 人とされていた中で大歓声が聞けなかったことは非常に残念でしたが、日本の選手もそれぞれが持てる力をベストの限り尽くし、日本選手団は**金 13、銀 15、銅 23**（うち陸上は**金 3、銀 3、銅 6**）という結果でした。

熊本機能病院
総合リハビリテーション部 PT 東 利雄

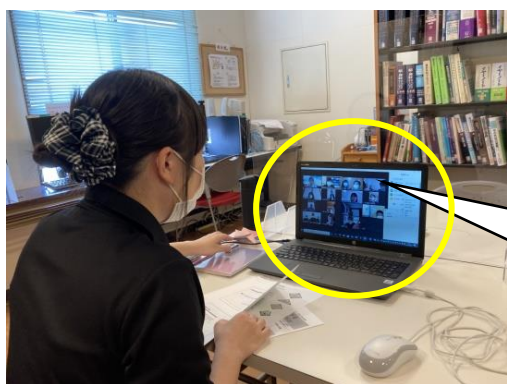
民生委員・児童委員向けにオンライン会議システムを活用した研修会を開催しました！

新型コロナウイルス感染症拡大により、地域で人が集まる活動、行事などができなくなっています。

熊本市高齢者支援センターささえりあ清水・高平では、地域との結びつきが途切れないように、今年7月より民生委員・児童委員向けに、**オンライン会議システム**（以下 Web 会議と略します）を活用した研修会を開催しています。



※モニターやカメラ、マイクを使って遠隔地の人とコミュニケーションを取ることができるシステムをオンライン会議システムと言います



第1回目は、高平台校区の民生委員・児童委員の方々を対象に「ささえりあ清水・高平の活動について」の題目で研修会を実施し、ささえりあの業務内容について詳しく説明を行いました。

高平台校区の民生委員・児童委員さんが画面上に集まっております

第2回目は、清水校区の民生委員・児童委員を対象に「地域の社会資源について」の研修会を実施し、熊本市独自の事業、インフォーマルサービス、介護保険制度などについて説明を行いました。

第3回となる9月24日は、熊本市障がい者支援センターアシストの方に協力頂き、「障がい者サポーター養成講座」を実施しました。15名の方に参加を頂き、グループワークを行いながら障がいについての説明を行っていただきました。



参加者の方からは「顔を見て話ができ、楽しかった」「自宅で感染を気にせず学ぶことができた」との声が多数聞かれました。Web 会議を活用した研修を通し、ささえりあとしても地域住民の学ぶ場を作ることができ、また顔の見える関係を再構築できたと感じています。

今後、清水校区では2か月に1回のペースで、Web 会議を活用した研修を実施していくことになっています。またコロナ禍でもあるので、清水・高平台校区の地域住民を対象としたオンライン研修も開催できればと思います。

熊本市高齢者支援センターささえりあ清水・高平 橋本沙弥

口唇口蓋裂 家族教室

◆口唇口蓋裂とは

口唇裂・口蓋裂は、顎・顔面に発生する先天性形態異常の中では最も多いものです。日本では約500人に1人の割合で口唇裂・口蓋裂の赤ちゃんが生まれています。

口唇裂・口蓋裂の発生原因は、全くの偶然、母胎の環境、何らかの薬剤、遺伝的因子など、小さな原因が積み重なった結果、それが一定の限界を超えたとき発生すると考えられています。

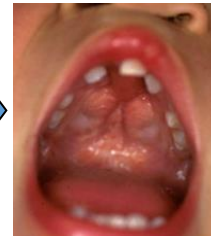
口唇裂・口蓋裂児には、口唇や鼻の形など見た目の問題の他に、次のような問題が生じる事があります。

- 哺乳・摂食の問題 哺乳困難や、食物が裂部より鼻へ流出する
- ことばの問題 鼻から息が漏れて発声しにくい、また正しい発音にならない
- 歯列の問題 歯ならびや噛み合わせに異常をきたす
- 聴こえの問題 滲出性中耳炎の罹患率が高く、難聴をきたす
- 発達の問題 ことばの育ちが遅れる
- 養育者の心理的不安 治療や子育てに対する不安、入院・通院・手術の費用等に関する不安がある

これらの問題に対処するために、形成外科医、矯正歯科医、耳鼻科医、小児科医、言語聴覚士、看護師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多くの専門スタッフが協力しながら治療を行います。



口唇裂の手術例



口蓋裂の手術例

◆出生前診断 保護者への情報提供

口唇裂・口蓋裂は赤ちゃんの出生時に分かりますが、最近は母胎の超音波検査によって出生前に診断がつくことも増えてきています。保護者の方は、赤ちゃんに口唇裂・口蓋裂があることがわかると、ショックを受けたり、「この先どうなるのだろう」と赤ちゃんの将来に強い不安を感じたりすることも少なくありません。しかし、様々な治療により将来的には日常生活上のハンディキャップは殆どなくなることをお伝えすると、安心され、治療に対して前向きなお気持ちになっていかれます。私どもは、出生前診断後、出生後、いずれの場合も口唇裂・口蓋裂があることがわかってから出来るだけ早期に情報提供を行い、保護者の方々に疾患や治療について理解していただくように努めていきたいと考えております。

◆**家族教室** 1987年2月からスタートし、2021年10月時点で約140回開催

熊本機能病院では、口唇裂・口蓋裂の治療に関するご家族への情報提供の場として、『口唇口蓋裂家族教室』を開催しています。ご家族だけでなく、産婦人科病院の看護師さんや地域の保健師さんなどの参加もあり、口唇口蓋裂に関する知識を深めておられます。

日時 毎年2月、5月、8月、11月の第1木曜日、午前10時～12時

場所 熊本機能病院 地域交流館 市民塾ホール

- | | |
|-----------------|---------------|
| ●口唇裂・口蓋裂の手術について | ●矯正歯科での治療について |
| ●ことばへの影響と治療について | ●入院中の過ごし方について |
| ●離乳食と手術後の食事について | ●育成医療について |

参加 形成外科医 矯正歯科医 言語聴覚士 看護師 管理栄養士 医療ソーシャルワーカー

治療のスケジュール(例)



口唇裂・口蓋裂の治療は、出生から成人期まで長期間に渡ります。保護者の方が、治療内容や治療時期などについて十分に理解され、途中で治療を中止することなく、主体的に治療に取り組んでいただくことが重要です。そのための情報提供を行うのが家族教室の役割です。また、医療・保健機関の皆様への情報提供、情報交換の場としての役割もあるものと考えております。

〈参考にした文献、ウェブサイト等〉

- ・日本形成外科学会ホームページ
- ・日本産婦人科医会ホームページ
- ・日本口腔外科学会「口唇裂・口蓋裂診療ガイドライン」
- ・口蓋裂の言語臨床 第3版

熊本機能病院 言語聴覚士 池島克行

編集後記 今回はパラリンピックの記事などを掲載いたしました。いかがだったでしょうか。言語学者の金田一秀穂先生が、ブラインドサッカーについて「ボールの音や仲間の声を頼りに、あれほどの確かな動きができるなんて、話し言葉による素晴らしいコミュニケーションだ」と話されていました。話し言葉は本当に大きな力を持っています。直接会って話しができる日を楽しみに、今しばらくはZOOMなども活用していきましょう。 言語聴覚士 井上理恵子